

質問回答書

担当課	商工課	業務名	令和7年度産業まちづくりプロモーション事業
-----	-----	-----	-----------------------

回答期限	7月23日
------	-------

受付日	質問番号	質問内容	回答内容
7月18日	(1)	仕様書等に記載がないが、企画立案に必須の情報として、下記に挙げる3点の業務項目について、現時点での取り組み状況、過去の実績、今後の方針等の詳細を提示してほしい。あわせて、それぞれの具体的な目標設定があれば提示してほしい。 ①ベルビア再生事業との運動について ②女性や若者を対象とした起業・創業支援事業との運動について ③ARCH・CICと連携した拠点間交流のコーディネートについて	①ベルビア再生事業との運動について（ベルビア1階北側未利用床を活用した公民連携による交流拠点整備事業） JR茅野駅に隣接する再開発ビル「ベルビア」は、駅前商業地域としての高度利用を図る中で、昭和62年に駅前広場などと併せ、茅野市の新しい顔として誕生しました。 茅野駅周辺エリアは、蓼科湖エリア、白樺湖・車山エリアと並ぶ、茅野市の交流の核となる重要な拠点の一つです。茅野市では、本年度、ベルビアをはじめとする茅野駅周辺エリアに、人や機能を集積させて3つの拠点を人が行き交うようにすること、また、駅周辺の施設が安心・安全・快適に利用できるようにすることを目指し、「ベルビア1階北側未利用床を活用した公民連携による交流拠点整備事業」に取り組んでいます。 茅野市内には市民の居住地域である郊外の要所に既にショッピングセンターが立地しており、市民の日常生活の買い回り等の中心は郊外に形成され、市民生活上も定着しています。そのため、現状では茅野駅周辺やベルビアにまとまった規模の店舗や飲食店の誘致の可能性は低く、新たなテナントを誘致することによりベルビアを商業施設として再生し、エリア価値を向上させることは困難な状況にあると考えます。その中で、ベルビア内にある茅野市コワーキングスペース「ワークラボハケ岳」や市民が育てるコミュニティ型ライブラリー「まちライブラリー@My Book Station茅野駅」には幅広い人材が集まり、交流する環境が整いつつあります。これらを踏まえ、従来の「人を呼び込む施設」から必然的に「人が集積する施設」への転換を目指し、ベルビア1階北側の市所有未利用床を活用し、意欲ある市内事業者等と行政が協働で、滞留人口と幅広い経済的な波及効果を生み出す場所を整備し、持続的に運営していく公民連携プロジェクト「(仮称)ワークラボ茅野ナレッジセンター構想*」を実現することを「ベルビア1階北側未利用床を活用した公民連携による交流拠点整備事業」の目的としています。 受注者には、こちらの事業について事業開始時期から継続した取材を行うとともに、当事業について関係するテクノロジーやノウハウを持った虎ノ門地区の企業と市内業者をつなぐ役割を担うことを期待しています。 *「(仮称)ワークラボ茅野ナレッジセンター構想」 当該施設に集まる事業者や人々により、知的な刺激や情報の交換を促し、新たな事業や活動を創発する空間づくりを想定しています。例えば、高等教育機関やクリエイティブな活動を目指す事業者や団体が協働で利活用しながら、お互いの活動領域を拡大し、新たな視点での展開を生み出すことを目指し、優良な教育、事業者の拠点づくりのための磁力を発揮する空間がイメージされます。また、茅野市の玄関口として、様々な目的の人々の活動が常になり、人々が立ち寄りたくなるような空間と新たな交流や繋がりが促進される機能を有していることも期待されます。また、施設としては、安全を第一に、清潔感を感じるデザインと機能が揃ったクオリティコントロールも求めています。 ②女性や若者を対象とした起業・創業支援事業との運動について（起業支援による女性活躍のまちづくりを通じた関係人口の創出事業） 茅野市では第6次総合計画において、様々な「交流」の力を発揮し、「幸せを実現できるまち」の具現化を目指す姿として、「活力と魅力があふれる稼げるまち」を掲げています。女性が担う社会的な役割は非常に大きなものがあり、女性の視点や柔軟性による社会への積極的な参画が期待されています。茅野市が掲げる「活力と魅力があふれる稼げるまち」の手法の一つとして「女性の活躍」があり、市として女性が活躍し躍動できるまち「茅野」を確立できるまでを広く情報発信し、関係人口の創出・拡大を目指します。 「起業支援による女性活躍のまちづくりを通じた関係人口の創出事業」は、令和6～8年度の3ヶ年の事業です。昨年度は4か月間にわたる講義を実施し、第1回目は「自分自身のインタビュー記事を書く」ことで自分の今までの考えや経験を整理し、自分の事業の源泉を掘り起こしました。第2回目は「女性が成功するビジネスモデル」を具体的に作成する方法を学び、第3回目は「企業前後における会計上の留意点」について金融・会計のプロから学びました。第4回目は4か月間で作り上げたビジネスプランを発表し、審査員から助言をもらいました。参加者は各自起業に向けた計画を「実行」に移しました。今年度は7月下旬から事業開始し、新規受講生の募集と共に、昨年度受講生に伴走して支援を行います。 こちらの事業を地上波放送やYouTubeなどで広く周知することで、首都圏等大都市圏に在住する起業志望の女性に、茅野市での起業の可能性について訴求するため、受注者には令和7年度事業の開始当初から継続した取材を行うとともに、ノウハウを持った虎ノ門地区の企業と起業希望の女性をつなぐ役割を担うことを期待しています。 ③ARCH・CICと連携した拠点間交流のコーディネートについて（茅野市～虎ノ門地区間プロジェクト） 本プロジェクトは、国土交通省のモデルプロジェクトとして選定されており、地方都市のイノベーション力強化と大都市の国際競争力強化に向けた都市再生の取組みを推進するものです。茅野市には地域資源の活用、関連産業の振興、賑わい再生による雇用創出、若者の流入促進についての課題があり、虎ノ門インキュベーション施設には、新規事業の社会実装・海外展開のために地方都市が実際に抱える社会課題との接点の創出や、事業開発のプロセスにおけるテクノロジーやノウハウの検証が必要があるため、両者で地域課題を解決する共創プロジェクトを事業化するというものです。今回の事業では、茅野市の産業まちづくりに向けた取り組みを推進するため、市内事業者並びに起業する女性と虎ノ門地区の企業をつなぐ役割を担える事業者を条件としています。
7月18日	(2)	仕様書に記載された業務内容が抽象的かつ曖昧である。 現行のスケジュールでは、検討・準備期間が短く、提案内容の精度や公平性に影響を及ぼすことを懸念している。 公平性の観点から、参加希望者を対象とした説明会を開催し、市の方針や目的を説明してほしい。また、スケジュールの見直しを希望する。 現状では特定の事業者に対して優位性があるとの誤解を招くのではないか。透明性確保に配慮を。	仕様書には、業務の目的と内容を記載しましたが、内容が抽象的であるのは、当事業はあらかじめ決めた事業の委託ではなく、民間事業者から企業取材の切り口や、企業同士のつながり、また、自社でできるその他の発信・プロモーションなどの幅広い提案を受け、最適任者を選択したかったためです。また、業務内容の詳細については、上記のとおり質問があり、回答をしていますので、そちらでご確認ください。 募集の期間が短期間となったことにつきましては、ベルビア再生事業並びに女性を対象とした起業・創業支援事業を開始したできるだけ早い時点から取材に入っていただくことを希望しているため、大変恐縮ですが、検討・準備期間が短くなることは承知しておりますが、このようなスケジュールを設定させていただいています。なお、前記の理由から説明会を開催することについては考えておりません。
7月18日	(3)	仕様書において「市の取り組みを地上波番組にて表現」といった趣旨の記載が見受けられるが、民間放送局においては「番組」と「プロモーション(広告)」には明確な区分が求められている。その境界が曖昧になることを懸念している。 番組制作にあたり、市から編集方針・内容に関する指示または関与があるのか否か。	本事業につきましては、市の取組みについて地上波放送やYouTubeで配信することにより、県外の特に首都圏や大都市圏の方に広く茅野市について知っていただくことを目的としており、「番組」では客観的な茅野市の可能性をベルビア等の取材を通して、「プロモーション」では、この番組をご覧になって関心を持たれた企業とつながっていただくこととしました。よって、今回の事業については、企業の利益になるような番組制作を依頼するものではありません。番組制作への市の関与については、基本的には制作を受注者に任せさせていただきます。但し、取材対象となる各事業等について誤った解釈があった場合は指摘させていただきます。 また、公序良俗に反したり個人の尊厳を損ねたりする内容があった場合についても指摘いたします。